

## ヴァヨツ・ゾル州のヴァイク市における日本と UNICEF の共同事業開所式

令和 8 年 5 月 6 日、青木豊駐アルメニア日本国大使は、国際連合児童基金（UNICEF）アルメニア事務所員らとともに、日本政府と UNICEF が共同事業を実施しているヴァヨツ・ゾル州のヴァイク市を訪問しました。

ヴァイク市では「ナゴルノ・カラバフ避難民及びホストコミュニティに対する精神保健及び心理社会的支援計画（約 5 億 5000 万円）」の一環として、「オルタナティブ・ユースセンター」が設立されました。ヴァイク地域の 16 の集落に暮らす若者たちが安心して集える場所として、本センターでは心理ケアを受けたり、リーダーシップ能力育成活動や学校以外の学びへの参加などを通して、地域に貢献できる人材を育むことを目指しています。

訪問当日、ユースセンターの明るく色とりどりのスペースは、避難民を含む多くの子供や若者たちで賑わい、読書やカードゲームなどを楽しむなど、思い思いの時間を過ごしていました。

青木大使は開所式の挨拶にて、「アルメニアの真の変革は、人々の変化、特に若者たちの変化なしには成し遂げられません。若者たちが集い、協力し合えるこの新しいユースセンターが、積極的な社会参画を促すきっかけになることを信じています」と述べました。



祝辞を述べる 青木大使



関係者によるテープカット



ユースセンター内の公共スペース



ユースセンター利用者との記念撮影



改修されたユースセンター



日本の協力を示す ODA プレート